第３回　河川レンジャー大阪ブロック運営会議　議事要旨

日時：令和８年３月２日（月）１５：００～１７：３０

場所：中央流域センター

出席者：

委員	河合、石田、北田、藤田、弓場、久保、伊藤、 道場、杉本、竹本（克）、辻川、﨑谷、山口（遼）、酒井
淀川河川事務所	辻野、南部
河川レンジャー事務局	深澤、宝藤、瀬戸口、服部　　（敬称略）

１．議事内容

（１）審議

１）令和８年度の運営体制について

２）河川レンジャー活動の成果と課題及び令和８年度河川レンジャー活動基本計画（案）

３）令和８年度新規河川レンジャー展開計画（案）

（２）報告

淀川管内河川レンジャー代表者会議開催の報告

（３）その他

今後のスケジュール

２．決定事項

○　河川レンジャー大阪ブロックの運営会議代表、代表河川レンジャーおよび副代表河川レンジャーが以下のとおり決定された。

役職	任期	氏名	所属等
運営会議代表	２年間	河合　典彦	環境省 希少野生動植物種保存推進員
運営会議代表 河川レンジャー	１年間	伊藤　茂	毛馬出張所管内河川レンジャー
運営会議副代表 河川レンジャー	１年間	竹本　克巳	高槻出張所管内河川レンジャー

○　大阪ブロック運営会議に所属する河川レンジャー１４名の令和８年度河川レンジャー活動基本計画（案）について、会議での指摘事項を反映し修正することを条件として承認された。修正後の計画は、運営会議代表と事務局にて最終確認を行う。

○　令和８年度新規河川レンジャー展開計画（案）が委員の検討を経て、以下のとおり決定された。

管内	募集人数	活動区域	活動内容等
福島	１名	全域	抽出された分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「川づくり・人づくり」です。 なかでも、自然災害への備えについて地域のニーズが高く継続的に広く活動が展開されている「治水・防災」、ヨシ原や干潟の保全・利活用が川の課題として挙がっている「環境保全」、不法投棄対策など川の課題解決に向けた取組の推進が求められている「維持管理」の３分野を望ましい分野とします。
毛馬	２名	全域	抽出された分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。 なかでも、自然災害への備えについて地域のニーズが高く学校からの依頼による防災学習が展開されている「治水・防災」、定点撮影、モニタリング調査、外来種防除等によるワンド保全活動の継続が望ましい「環境保全」、舟運の歴史を伝える語り部などの活動の充実化が望まれる「歴史・文化」、地域と連携した川づくりに継続して取り組むための「川づくり・人づくり」の４分野を望ましい分野とします。
枚方	１名	寝屋川市 守口市	抽出された分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。 なかでも、自然災害への備えや淀川の環境、安全な利用についての学習などで地域から高いニーズがある「治水・防災」「環境保全」「河川利用」、不法投棄対策など川の課題解決に向けた取り組みの推進が求められている「維持管理」、点野ワンドにおいて地域と連携した川づくりが継続的に実施されている「川づくり・人づくり」の５分野を望ましい分野とします。
高槻	１名※	全域	抽出された分野は「治水・防災」「環境保全」「河川利用」「維持管理」「歴史・文化」「川づくり・人づくり」です。 なかでも、地域のニーズが高く学校や公民館等と連携した出前講座が継続的に行われている「治水・防災」「環境保全」、活動は少ないものの地域のニーズが高く、水害の歴史について学ぶ歴史探訪等をきっかけに地域の防災力向上なども期待される「歴史・文化」の３分野を望ましい分野とします。

※高槻は、管内６人目の募集であることから、河川レンジャーとして実施したい活動が、展開計画の活動内容等における“望ましい分野”のいずれかを含む方を対象とする。

３．主な意見等（〇意見、⇒直前の意見に関連した議論）

（１）審議

１）河川レンジャー活動の成果と課題及び令和８年度河川レンジャー活動基本計画（案）

①兒玉レンジャーの活動

○　計画書の課題や相談事項の記載について、計画実施への不安が残るため、文言の訂正が必要である。

○　新北野に移植されたヨシ原での清掃活動について、春季（初夏を含む）はヨシの生育期にあたるため、新芽の踏み荒らしへの配慮が必要である。これを個別計画の「その他」欄に注意事項として記載すること。

②白川レンジャーの活動

○　干潟での観察会について、十三干潟への活動集中を避け、柴島干潟など安全に活動できる他の再生干潟での展開も検討してはどうか。

○　活動場所について、記載の「淀川右岸　豊里大橋から下流」が「淀川右岸　長柄橋から下流」の誤りではないか。実施場所を確認し、訂正が必要である。

③西畑レンジャーの活動

○　「汽水域　生き物発見隊」の活動は 6 月～7 月中旬に計画されているが、近年の気温上昇をふまえると、遅くとも 7 月上旬までに実施するべきである。暑さを考慮した実施時期の再検討が必要。

④伊藤レンジャーの活動

○　「バッタオリンピック」について、単なるイベントではなく「鳥飼地区の河川敷における生き物観察」という位置づけと目的を明確にして実施すること。

○　都島区民祭り出展について、活動目的・内容・活動分野からは、どういった内容で計画されているのかわかりづらいため、内容を補ってはどうか。

○　都島区は行政の区民に対する淀川の環境や歴史・文化等の PR 等に熱心であり、行政との連携を引き続き推進してほしい。

⑤伊藤レンジャー・波戸レンジャーの活動

○　鳥飼ワンドの保全活動について、伊藤レンジャーと波戸レンジャーが活動を計画されているが、一部内容・時期の重複などが見られる。そのため、事前の連携や調整を図りながら進めてほしい。

⑥道場レンジャーの活動

○　「川の課題と整備計画のつながり」について、淀川河川公園整備計画の内容から自身の活動に該当する項目を抜き出して追記・再提出する。

○　河川公園アクセス道での歩行者・自転車・自動車の譲り合い状況も踏まえ、利用マナーの現状を反映した安全で快適な河川利用に向けた仕組みづくり（ヒヤリハットマップ作成等）につなげてほしい。

○　守口市こどもまつりやバッタのオリンピック等の他の活動に自転車の活動を取り入れてはどうか。

⑦岡村レンジャーの活動

特段意見なし

⑧天野レンジャーの活動

○　庭窪ワンドでの活動について、大学生との連携に加え、小学校や中学校にも働きかけ、環境学習や保全活動への参加を促進してはどうか。

⑨土井レンジャーの活動

特段意見なし

⑩杉本レンジャーの活動

○　瀬田川洗堰、アクア琵琶で活動するのであれば、琵琶湖のレンジャーと連携してはどうか。

⑪竹本（克）レンジャーの活動

○　三島江野草地区や唐崎ワンドの環境保全活動を継続するには、高槻市内の市民団体等との連携が重要である。

⇒三島江野草地区では、高槻第六中学校の教員・生徒が自主的に保全活動に取り組んでおり、河川レンジャーがいなくなっても継続できる体制が構築されている。

○　計画に「水害」と「水難事故」が混同されているように記載されており、この定義を明確に区別すること。水害は自然災害、水難事故は人の行動が原因であり、対策が異なるため、計画書や啓発時には両者を分けて説明することを徹底すること。

⑫奥山レンジャーの活動

特段意見なし

⑬小林レンジャーの活動

特段意見なし

⑭竹本（晃）レンジャーの活動

○　河川利用分野の活動計画（着衣泳・ライフジャケット体験）の目的・目標欄に防災分野の内容が含まれているが、８年度の個別計画には防災分野の記載がないため、不整合となっている。内容を確認し訂正すること。

⑮全レンジャー共通の留意事項

【活動基本計画の策定について】

○　河川整備計画を踏まえ、課題を正しく認識したうえで「課題解決型」の活動を計画することが重要である。

○　活動の軸がぶれないよう最終目標を明確に設定する必要がある。特に経験のある先輩レンジャーは、新規レンジャーの模範となるよう、目標と計画を充実して記載すること。

【防災教育の展開について】

○　防災に関する出前授業については、現在小学校を中心に行われているようだが、今後は中学校や高校など、対象者の年齢や理解度に応じた段階的な防災教育を展開していく必要があるのではないか。

⇒中学校において「わがまち防災スクール」として、生徒を対象に授業を実施している（辻川レンジャーアドバイザー主催）。生徒たちには「将来どこの地域に行っても、君たちが地域の担い手になるんだ」というメッセージを伝え、意識づけを行っている。

⇒昨年度は、高校生が小学生に向けて地域の危険な箇所を教える授業をレンジャーがサポートする取り組みがあった。また、河川レンジャーが協力した地域の防災訓練において、中学生が訓練に参加する事例などもあった。

⇒小学校における学校教育との連携は、時間の融通が利きやすく取り組みやすい。一方で、中学校や高校になると教科の専門性や進路指導などがあり、時間調整が難しいという課題がある。しかし、各年齢に応じた防災教育を継続していく視点は非常に重要である。

２）令和 8 年度新規河川レンジャー展開計画（案）

○　高槻出張所以外でも、望ましい活動分野や活動区域に合致する河川レンジャーを任命すべきではないか。

（２）報告

○　試行期間の河川レンジャー辞任（１名）が報告されているが、事務局として活動を継続できるよう対策をとられているか。

⇒試行期間中の辞任者について、事務局はフォローアップ研修や個別面談により、課題や困りごとを把握して支援している。また、辞任後も淀川かわづくりパートナーへの登録により、継続的に活動に協力できる仕組みが構築されており、レンジャー辞任後もゆるやかな関わりを維持できる体制となっている。

以上